

学校での生成AI利活用に関する ガイドラインの策定

策定の背景と基本理念

生成AIの急速な普及は、教育の利便性を高める一方で、「学ぶことの意義」そのものに対する根源的な問いを投げかけています。茅野市教育委員会では、この変化を「将来に向けて積極的に取り組むべき課題」と捉え、本ガイドラインを策定しました。

本指針は、「茅野市ICT活用戦略2018-2027」が掲げる「ICTが支える、人にやさしい暮らし」に基づき、効率化の道具としてだけでなく、子どもたちが情報技術を使いこなし、自身の才能を開花させるための「有用なツール」として適切に利活用するための指針です。これは「禁止や義務付け」を目的としたものではなく、「適切な利活用のための共通指針」です。

本ガイドラインにおいて、生成AIは、人間の能力を補助・拡張するパートナーとして位置づけ、「**人間中心の原則**」の基に、あくまで出力されたものは「参考」であり、最終的な判断と責任は常に「人間」であることを徹底します。また、目的は技術の導入ではなく、教育の根幹は教師と子どもの学び合う関係性であることをあくまで基調とした「情報活用能力」の育成を目指します。

茅野市における生成AIの利用環境

市教委で契約し、セキュリティの担保されたライセンス下で、以下のツールを推奨します。

サービス名	教職員	児童生徒
Gemini Notebook LM	○	○
Copilot	○	×
その他	×	×

セキュリティ・著作権の遵守事項

安全な利用の担保のため、以下5点を徹底します。

- ①**安全な適正利用**
約款等の遵守、保護者理解
- ②**セキュリティ**
情報セキュリティポリシー遵守
- ③**個人情報・著作権の保護**
個人情報の入力制限、著作権への十分な配慮
- ④**公平性**
ハルシネーションやバイアスの注意と人間の介在
- ⑤**透明性**
使用の明示（引用・出典の明記）

教職員・児童生徒の活用方針



校務の効率化・質の向上

事務作業を効率化し、教職員が「学びの専門職」として、より児童生徒一人ひとりと向き合う時間を創出する。

（情報の集約・素案づくり、指導情報など）



情報活用能力・思考力の育成

「答えを出すツール」ではなく、自らの思考を深め、より高度な課題に挑戦するためのツール（**学びのパートナー**）として活用する。

生成AI自体
を学ぶ

使い方
を学ぶ

学びに
用いる